

## 摂食の心理・行動学的研究(2)

——保育園児に対する保母の評価と母親の評価の比較——

嘱託研究員	庄司 順一(都立母子保健院)
研究第2部	二木 武
嘱託研究員	川井 尚(東京都精神医学総合研究所)
	恒次 欽也(愛知教育大学)
	野尻 恵(桜ヶ丘保健院)
	大橋真理子(東京都精神医学総合研究所)
研究第2部	斎藤 幸子
研究第4部	水野 清子

### 研究目的

最近、乳幼児の摂食について、たんに栄養学的な面のみならず、心理・行動学的な発達面も重視する必要があることが指摘されるようになってきた<sup>1)~3)</sup>。筆者らは、子どもの食事に対する態度や食事行動(食欲、好き嫌い、食事をしているときの表情など)と子どもの心の状態(とくに意欲、自主性、活発さなど)との間の関連性を検討するために、保育園児を対象とした調査を行い、両者の間には密接な関連の認められることを明らかにした<sup>4)</sup>。前回の報告は母親の回答を分析したものであったが、今回は同時に行った保母の回答を分析したい。すなわち、母親の報告したことが保育場面においても認められるかを検討し、また母親と保母の評価を比較することにより、それぞれの子どものとらえかたの特徴を明らかにしたい。

### 方法および対象

筆者らは、母親が回答する「幼児の健康についてのアンケート」を作成したが<sup>4)</sup>、これにもとづいて「保母用」のアンケートも作成した。これは、(Ⅰ)微症状・習癖(4項目)、(Ⅱ)子どもの食事態度・食事行動(12項目)、(Ⅲ)子どもの心の状態(8項目)からなる。各項目の内容は「母親用」と同じである。対象は第1報と同一であり、東京・世田谷区内の公立保育園(23園)および川崎市内の私立保育園(19園)の3~4才児を中心とした園児1016名(男児486名、女児536名)である。これらの児について、担任保母にアンケートへの回答を依頼した。データの整理法は第1報と同じである。

### 結果および考察

#### 1. 全体の傾向

ここでは、各項目の反応頻度を検討する。

##### (1) 微症状・習癖(表1、表2)

だるそうにしていることは、よくある約5%、たまにある約30%とやや高くなっている。母親の回答では約1%、約24%であった。

吐くことと下痢をすることは、よくある、たまにあるが8~9%で、母親の回答より低くなっている。

習癖があるのは、約25%で、母親の回答よりやや低い。

これらの項目では、男女間で差はほとんどみられない。習癖の種類と出現順位は、おおよそ母親の回答と一致しているといえよう。ただ、自慰は母親の回答には出現していない。全体に出現頻度は保母の回答の方がわずかに低くなっている。母親の回答と同じように、口腔習癖は女兒に多く、性器いじり、自慰は男児に多い傾向がみられた。

##### (2) 食事行動の評価(表3)

食事態度・食事行動については、項目により3~5段階で評価するようになってきているが、それぞれの反応頻度の概要は次のとおりである。

- ① 食べるとき楽しそうか—楽しそう60.7%で、あまり楽しそうでない、いやいや食べる38.8%と高率である。母親の回答よりもネガティブな回答の頻度が高い。
- ② 食欲—非常にある、ふつうにある71.9%、やや少ない、少ない、ほとんどない27.8%と、約30%は食欲が少ないようにみられている。この頻度は、母親の回答よりも高い。
- ③ 食べる量—ほどよい70.5%で、これは母親の回答

(59.4%)よりも高い。食べる量が多すぎるは4.3%で、母親の回答と差はないが、少ない、非常に少ないは25.0%で、母親の回答(34.4%)より低い。すなわち、母親は子どもの食べる量が少ないと思いがちのようである。

④好き嫌い—ほとんどない、ふつう82.0%、やや多い、非常に多い17.8%で、母親の回答と差はない。

⑤食べる速さ—ふつう50.9%、はやい17.2%、おそい31.4%。母親の回答に比べると、ふつうがやや少なく、

はやいが多い。

⑥よくかんで食べるか—よくかんでいる80.3%、かみ方の不十分なもの17.4%。母親の回答よりも、よくかんでいるとみられている。

⑦食事に1時間以上かかること—ない67.7%、たまにある25.1%、よくある6.6%。やや家庭の方が時間のかかることが多いようではあるが、これは子どもの食事行動だけによるというよりも、食事の状況の違い(保育園では昼食だけである)にもよっていると考えられる。

⑧食事中に席を立つこと—ない80.3%、たまにある15.5%、よくある3.8%で、母親の回答(ない26.9%、よくある20.4%)とは著しい差がある。

⑨食事をさいそくすること—よくある、たまにある47.6%、ない51.8%で、これも母親の回答(95.5%、5.4%)とは大きな差がある。

⑩「おいしい」「おいしくない」などと食事について感じたことをいう—よくある、たまにある69.8%、ない29.5%。これも母親の回答と大きな差があるが、⑧⑨とともに食事の状況が家庭と保育園では異なっており、差がみられるのは当然のことといえよう。

⑪食べにくいものでも食べるか—よく食べる、ふつう85.2%、きらって食べない13.4%で、これは母親の回答とはほぼ一致している。

⑫食事時の表情—生き生きしている28.7%、ふつう62.6%、つまらなそうにしている3.1%で、母親の回答よりややつまらなそうにしているが多い(母親の回答では2.0%)。

以上の結果をまとめると、保母の回答と母親の回答とはおおそ同様の傾向がみられるが、反応頻度に大きな差がみられる項目(⑦～⑩)もある。これは、保育園と家庭での食事の状況の違いによると考えられる。食事状況の違いというよりも、子どもの食事行動・食事態度を反映していると考えられる項目で、保母の方がポジティブに評価していると考えられるのは食べる量(③)とよくかんで食べるか(⑥)であった。他方、母親の方がポジティブに評価しているとみられるのは食べるとき楽しそうか(①)、食欲(②)食事時の表情(⑫)であった。

男女間の差異をみると、男児の方が女児よりも、食べるとき楽しそうで、食欲もあり、食べる量もほどよく、食べる速さははやく、丸のみ

表1 微症状・習癖

		不明	よくある	たまにある	ない
だるそう	全体	3(0.3)	53(5.2)	294(28.9)	666(65.6)
	男	1(0.2)	22(4.5)	147(30.2)	316(65.0)
	女	2(0.4)	31(5.8)	147(27.7)	350(66.0)
吐く	全体	3(0.3)	15(1.5)	77(7.6)	921(90.6)
	男	1(0.2)	7(1.4)	36(7.4)	442(90.9)
	女	2(0.4)	8(1.5)	41(7.7)	479(90.4)
下痢	全体	8(0.8)	2(0.2)	75(7.4)	931(91.6)
	男	2(0.4)	2(0.2)	41(8.4)	441(90.7)
	女	6(1.1)	0(0.0)	34(6.4)	490(92.5)
くせ	全体	22(2.2)	170(16.7)	68(6.7)	756(74.4)
	男	9(1.9)	70(14.4)	28(5.8)	379(78.0)
	女	13(2.5)	100(18.9)	40(7.5)	377(71.1)

表2 習癖の種類と頻度 (N=1005, 男482, 女523)

習癖の内容	全体	男	女
記入なし	893(88.9)	424(88.0)	469(89.7)
指しゃぶり	45(4.5)	17(3.5)	28(5.4)
爪かみ	18(1.8)	9(1.9)	9(1.7)
性器いじり	8(0.8)	7(1.5)	1(0.2)
鼻をほじる	7(0.7)	4(0.8)	3(0.6)
自慰	7(0.7)	1(0.2)	6(1.1)
ものをしゃぶる	5(0.5)	5(1.0)	0(0.0)
ものを持ち歩く	3(0.3)	2(0.4)	1(0.2)
吐く	2(0.2)	1(0.2)	1(0.2)
口唇かみ	1(0.1)	0(0.0)	1(0.2)
顔にさわる	1(0.1)	0(0.0)	1(0.2)
母の身体にさわる	1(0.1)	0(0.0)	1(0.2)
夜尿	1(0.1)	1(0.2)	0(0.0)
吃音	1(0.1)	0(0.0)	1(0.2)
夜驚	1(0.1)	1(0.2)	0(0.0)
性格的な問題	1(0.1)	1(0.2)	0(0.0)
2つ以上もつもの	3(0.3)	3(0.6)	0(0.0)
その他	7(0.7)	6(1.2)	1(0.2)

表3 食事行動

1	食べるとき 楽しそうか		不明	楽しそう	あまり楽し そうでない	いやいや 食べる		
		全体	5(0.5)	617(60.7)	366(36.0)	28(2.8)		
		男	2(0.4)	311(64.0)	161(33.1)	12(2.5)		
		女	3(0.6)	306(57.7)	205(38.7)	16(3.0)		
2	食欲		不明	非常にある	ふつうにある	やや少ない	少ない	ほとんどない
		全体	4(0.4)	157(15.5)	573(56.4)	203(20.0)	63(6.2)	16(1.6)
		男	2(0.4)	84(17.3)	298(61.3)	77(15.8)	16(3.3)	9(1.9)
		女	2(0.4)	73(13.8)	275(51.9)	126(23.8)	47(8.9)	7(1.3)
3	食べる量		不明	多すぎる	ほどよい	やや少ない	非常に少ない	
		全体	2(0.2)	44(4.3)	716(70.5)	227(22.3)	27(2.7)	
		男	2(0.4)	23(4.7)	378(77.8)	74(15.2)	9(1.9)	
		女	0(0.0)	21(4.0)	338(63.8)	153(28.9)	18(3.4)	
4	好き嫌い		不明	ほとんどない	ふつう	やや多い	非常に多い	
		全体	3(0.3)	380(37.4)	453(44.6)	151(14.9)	29(2.9)	
		男	3(0.6)	187(38.5)	206(42.4)	77(15.8)	13(2.7)	
		女	0(0.0)	193(36.4)	247(46.6)	74(14.0)	16(3.0)	
5	食べる速さ		不明	はやい	ふつう	おそい		
		全体	5(0.5)	175(17.2)	517(50.9)	319(31.4)		
		男	4(0.8)	111(22.8)	268(55.1)	103(21.2)		
		女	1(0.2)	64(12.1)	249(47.0)	216(40.8)		
6	よくかむか		不明	よくかむ	丸のみ	いつまでも のみこまない	まだ よくかめない	
		全体	24(2.4)	816(80.3)	76(7.5)	93(9.2)	7(0.7)	
		男	17(3.5)	385(79.2)	49(10.1)	32(6.6)	3(0.6)	
		女	7(1.3)	431(81.3)	27(5.1)	61(11.5)	4(0.8)	
7	食事に1時間 以上かかる		不明	よくある	たまにある	ない		
		全体	6(0.6)	67(6.6)	255(25.1)	688(67.7)		
		男	5(1.0)	21(4.3)	98(20.2)	362(74.5)		
		女	1(0.2)	46(8.7)	157(29.6)	326(61.5)		
8	食事中 席を立つこと		不明	よくある	たまにある	ない		
		全体	4(0.4)	39(3.8)	157(15.5)	816(80.3)		
		男	3(0.6)	27(5.6)	97(20.0)	359(73.9)		
		女	1(0.2)	12(2.3)	60(11.3)	457(86.2)		
9	食事を催促 すること		不明	よくある	たまにある	ない		
		全体	6(0.6)	60(5.9)	424(41.7)	526(51.8)		
		男	5(1.0)	34(7.0)	208(42.8)	239(49.2)		
		女	1(0.2)	26(4.9)	216(40.8)	287(54.2)		
10	食事について 感じたことを いう		不明	よくある	たまにある	ない		
		全体	7(0.7)	182(17.9)	527(51.9)	300(29.5)		
		男	3(0.6)	73(15.0)	262(53.9)	148(30.5)		
		女	4(0.8)	109(20.6)	265(50.0)	152(28.7)		

11	食べにくい ものを食べる		不 明	よく食べる	ふ つ う	き ら う
		全体	14(1.4)	241(23.7)	625(61.5)	136(13.4)
		男	6(1.2)	145(29.8)	269(55.3)	66(13.6)
		女	8(1.5)	96(18.1)	356(67.2)	70(13.2)
12	食事のときの 表 情		不 明	生き生き	ふ つ う	つまらなそう
		全体	6(0.6)	292(28.7)	636(62.6)	82( 8.1)
		男	5(1.0)	145(29.8)	299(61.5)	37( 7.6)
		女	1(0.2)	147(27.7)	337(63.6)	45( 8.5)

しがちで、食事に1時間以上かかることは少なく、食べにくいものもよく食べる傾向がみられる。女兒は、かみ方が不十分でいつまでものみこまずにいて、食事中に席を立つことは少なく、食事についてよく感じたことをいう傾向がみられる。

### (3) 子どもの心の状態の評価 (表4)

子どもの心の状態を評価する項目は、表4に示す8

項目であり、それぞれ5段階で評価するようになっている。その概要を述べると、中間の「ふつう」を除いて、ポジティブな反応は40~60%、ネガティブな反応は4~20%であった。ネガティブな反応でも、段階5の「~でない」は0.4~2.6%であった。母親の回答と比べて、全体にポジティブな反応がやや少なく、ネガティブな反応がやや多いが、このことについては

表4 心の状態

			1					2		3		4		5	
			不 明	大変~である	やや~である	ふ つ う	やや~でない	~でない	~でない	~でない	~でない	~でない	~でない		
1	活 発 さ	全体	4(0.4)	254(25.0)	314(30.9)	302(29.7)	116(11.4)	26( 2.6)							
		男	4(0.8)	141(29.0)	144(29.6)	144(29.6)	43( 8.8)	10( 2.1)							
		女	0(0.0)	113(21.3)	170(32.1)	158(29.8)	73(13.8)	16( 3.0)							
2	好 奇 心	全体	4(0.4)	250(24.6)	303(29.8)	363(35.7)	88( 8.7)	8( 0.8)							
		男	4(0.4)	123(25.3)	136(28.0)	180(37.0)	39( 8.0)	4( 0.8)							
		女	0(0.0)	127(24.0)	167(31.5)	183(34.5)	49( 9.2)	4( 0.8)							
3	意 欲 的	全体	5(0.5)	149(14.7)	330(32.5)	365(35.9)	149(14.7)	18( 1.8)							
		男	5(1.0)	66(13.6)	147(30.2)	180(37.0)	76(15.6)	12( 2.5)							
		女	0(0.0)	83(15.7)	183(34.5)	185(34.9)	73(13.8)	6( 1.1)							
4	積 極 的	全体	7(0.7)	132(13.0)	288(28.3)	382(37.6)	184(18.1)	23( 2.3)							
		男	6(1.2)	59(12.1)	122(25.1)	197(40.5)	87(17.9)	15( 3.1)							
		女	1(0.2)	73(13.8)	166(31.3)	185(34.9)	97(18.3)	8( 1.5)							
5	表情が 生き生き	全体	6(0.6)	277(27.3)	327(32.3)	323(31.8)	76( 7.5)	7( 0.7)							
		男	5(1.0)	132(27.2)	150(30.9)	167(34.4)	28( 5.8)	4( 0.8)							
		女	1(0.2)	145(27.4)	177(33.4)	156(29.4)	48( 9.1)	3( 0.6)							
6	自分でやり たがる	全体	7(0.7)	251(24.7)	317(31.2)	272(26.8)	148(14.6)	21( 2.1)							
		男	7(1.4)	81(16.7)	138(28.4)	153(31.5)	89(18.3)	18( 3.7)							
		女	0(0.0)	170(32.1)	179(33.8)	119(22.5)	59(11.1)	3( 0.6)							
7	友だちと よく遊ぶ	全体	4(0.4)	231(22.7)	397(39.1)	296(29.1)	84( 8.3)	4( 0.4)							
		男	4(0.8)	119(24.5)	188(38.7)	140(28.8)	32( 6.6)	3( 0.6)							
		女	0(0.0)	112(21.1)	209(39.4)	156(29.4)	52( 9.8)	1( 0.2)							
8	き げ ん	全体	7(0.7)	300(29.7)	312(30.7)	355(34.9)	38( 3.7)	4( 0.4)							
		男	6(1.2)	151(31.1)	140(28.8)	175(36.0)	14( 2.9)	0( 0.0)							
		女	1(0.2)	149(28.1)	172(32.5)	180(34.0)	24( 4.5)	4( 0.8)							

表5 食事態度・食事行動と心の状態との関連

食事行動 \ 心の状態	活発さ	好奇心	意欲的	積極的	表情	自発的	友達と遊ぶ	きげん
食べるとき楽しそう	***	***	***	***	***	***	***	***
食欲	***	***	***	***	***	***	***	***
食べる量	***	***	***	***	***	*	*	**
好きらしい	*					***		
食べる速さ	***	***	***	***	***	**		
よくかむか								
食事に1時間以上	*							
食事中に席を立つ								
食事のさいそく	***	***	***	***	***	*	***	
「おいしい」という	***	***	***	***	***	***	***	***
食べにくいものも食べる	**				***	***		
食事のときの表情	***	***	***	***	***	***	***	***

\* p < .05      \*\* p < .01      \*\*\* p < .001

後に考察する。

ネガティブな反応の頻度が高い項目は、「積極的」(20.4%)、「自発的」(16.7%)、「意欲的」(16.5%)であり、ネガティブな反応の頻度が低いのは「きげん」(4.1%)、「表情が生き生き」(8.2%)であった。

男女間の差異はあまり顕著ではないが、男児の方が活発で、女児は自発的な傾向がみられた。

## 2. 食事行動と心の状態との関連

第1報と同様に、食事に対する態度や食事行動と子どもの心の状態との関連を検討するために、対象児のうち4才児(N=640)について、項目ごとに $\chi^2$ 検定を行った(表5)。

表5に示されているとおり、食事態度・食事行動と子どもの心の状態との間に、多くの項目間で有意な関連が認められた。これらの関連はすべて、例えば食べるとき楽しそうである子どもは、活発であることが多いというように、食事行動でポジティブなものは、心の状態もポジティブであり、逆に食事行動でネガティブなものは心の状態もネガティブなことが多いというものであった。これらの結果は、基本的には母親の回答によるものと一致しているが、保母の回答の方が有意な関連を示す項目がより多くなっている。いずれにしろ、保育場面での保母の評価においても、食事に対する積極的な態度と子どもの意欲、積極性、活発さというような心の状態とが、密接な関連を有していることが確認された。

## 3. 保母の評価と母親の評価の比較

すでに述べてきたように、同一の対象児に対する保母の評価と母親の評価は、おおよそ同様の傾向がみられると考えられた。しかし、若干の興味深い差異が

みられることも確かである。

食事態度・食事行動については、保母と母親の評価の差異が保育園と家庭とで食事状況の違いによると考えられる項目があった。他方、食事状況ではなく、子どもの食事態度・食事行動を反映していると考えられる項目もあり、これらは保母の方がよりポジティブに評価しているものと、逆に母親の方がよりポジティブなものがあった。保母がよりポジティブに評価したのは、食べる量とよくかむかという項目であり、比較的客観的にとらえられる行動といえよう。母親がポジティブに評価しているのは、食べるとき楽しそうか、食欲があるか、食事中の表情は生き生きしているかという、より主観的な判断に基づく項目といえようである。

表6 母親と保母の評価の比較 (%)

		評価 (%)	
		ポジティブ	ネガティブ
活発さ	母親	62.6	4.2
	保母	55.9	14.0
好奇心	母親	65.4	3.3
	保母	54.4	9.5
意欲的	母親	53.5	5.0
	保母	47.2	16.5
積極的	母親	43.6	12.1
	保母	41.3	20.4
表情	母親	69.5	0.5
	保母	59.5	8.2
自発的	母親	65.4	12.9
	保母	55.9	16.7
友達と遊ぶ	母親	57.9	4.8
	保母	61.8	8.7
きげん	母親	69.0	0.7
	保母	60.2	4.1

次に、心の状態についての項目をみてみたい。表6には心の状態に関する項目における中間の「ふつう」を除いて、ポジティブとネガティブの頻度を母親と保母とで比較して示した。ここでは、「友達とよく遊ぶ方か」という項目のポジティブ反応が保母の方がやや高くなっていることを除いて、すべて母親の方がポジティブの頻度は高く、ネガティブは低くなっている。すなわち、保母よりも母親の方が、子どもをポジティブにとらえているようである。しかし、これは母親と保母の相対的な差であって、どちらのとらえ方が正しいのかということではないだろう。いずれにしろ、心の状態に関する項目は主観的な判断によるところが大きいといえるし、主観的な判断に基づく場合には母親はよりポジティブにとらえる傾向があるといえそうである。先の食事態度・食事行動においても、より主観的な判断に基づく項目では母親の方がポジティブな反応頻度が高くなっていた。網野ら(1983)<sup>5)</sup>は、3才以下の保育園児について、その発達状況を保母と保護者として評価してもらったところ、DQはいずれの領域においても保護者の評価による方が高いこと、とくに社会性・情緒の領域で差がもっとも大きかったこと、保護者と保母では判断の基準や観点が異なる背景の多いことを指摘している。網野らの結果は、本研究の結果を支持するものと考えられる。

## 要 約

子どもの食事態度・食事行動と、意欲、活発さなど心の状態との関連を明らかにするために、「幼児の健康についてのアンケート」を作成し、東京・世田谷区内と川崎市内の保育園の3～4才児を中心とした1016名を対象に調査を行った。

第1報では母親の回答を分析したが、今回の報告は、同一の対象児に対する保母の回答について検討を試みた。すなわち、各項目の反応傾向を分析し、食事態度・食事行動と心の状態との関連を検討し、保母の評価と母親の評価を比較した。その結果、食事行動と子ども

の心の状態とは密接な関連が認められるなど、保母の評価と母親の評価は基本的には同様の傾向を示すと考えられたが、興味深い差異もみられた。食事行動においては家庭と保育園での食事の状況の違いにより反応頻度に大きな差のみられた項目もあった。また、心の状態の評価など、主観的な判断に基づく項目では母親の方がよりポジティブに評価する傾向がみられた。

今後、アンケートの反応の年齢ごとの特徴や変化についても検討を加えたい。

なお、本調査を実施するにあたって多大なご協力をいただいたそれぞれの園の先生方とお母さま方に感謝いたします。

(本アンケートの一部は、川井尚ほか「乳児期の母子関係と心の健康—全国調査から—」厚生省「母子相互作用研究班」昭和60年度研究報告書、川井尚ほか「三才児健診における心理社会面チェック指標の策定に関する研究」(小児保健研究, 44(5), 611-614, 1985)、および昭和62年度東京都幼児栄養調査(東京都衛生局、1988)から、その項目を得た。)

## 引用文献

- 1) 二木 武 栄養と発達 (二木 武・帆足英一・川井 尚(編著)小児の発達栄養行動 医歯薬出版, 1984.)
- 2) 二木 武 小児の発達栄養行動 小児医学, 20(5) 925-1, 1984.
- 3) 山下文雄・緒方尚子 小児期の栄養学的特性: 学童・青少年期 (小林登ほか(編) 新小児医学大系 3B 小児栄養学II 中山書店, 1986.)
- 4) 二木 武・庄司順一ほか 摂食の心理・行動学的研究(1) 一摂食行動と意欲との関連について—日本総合愛育研究所紀要, 第24集, 197-209, 1988.
- 5) 網野武博・萩原英敏ほか 乳幼児期における母性的養育環境の相違と発達に関する縦断的研究(5) 日本総合愛育研究所紀要, 第19集, 103-111, 1983.

Psychological and Behavioral Study of Feeding of the Young Children (2)

Junichi Shoji	Takeshi Futaki
Hisashi Kawai	Kinya Tsunetsugu
Megumi Nojiri	Mariko Ohashi
Sachiko Saito	Seiko Mizuno

The authors have been studying the relationship between young childrens' feeding attitudes or behaviors and their psychological activities. We developed a questionnaire, and asked childrens' mothers and their nursery teachers to accomplish it. In the first report, the results of mothers were analyzed.

The purpose of this second report is to analyze the nursery teachers' answers and compare them to mothers' ones.

The subjects are the same children of the first report (N=1016, aged 2- to 5-years old).

The results show that although the responses of teachers are similar to that of mothers, there are some differences. The mothers are tend to be relatively positive to the items assessed subjectively.